パーソナリティと関係性が恋愛関係の間接的暴力に及ぼす影響

○金政祐司¹・荒井崇史²

(¹ 追手門学院大学心理学部・² 東北大学大学院文学研究科)

キーワード: 愛着不安, DTDD, 間接的暴力

Effects of personalities and characteristics of relationships on indirect violence of romantic relationships.

Yuji KANEMASA¹ and Takashi ARAI²

(¹ Otomon Gakuin University & ² Tohoku University)

Key Words: Attachment anxiety, DTDD, indirect violence

問題と目的

配偶者からの暴力事案等の相談状況は, 昨年の平成 29 年に初めて 7 万件を突破し, 過去最多となった(警察庁, 2018)。また, 内閣府(2018)の男女間暴力調査によれば, 交際相手からの暴力の被害経験率は, 女性で約 5 人に 1 人, 男性で約 9 人に 1 人であり, その問題の裾野は広い。それゆえ, 心理学的な観点から, 親密な関係内の暴力(以下, IPV)を増大させる要因について検討を加えていく必要性は高いと言える。

金政・荒井(2018)では, パーソナリティ特性である愛着不安ならびに DTDD(ダークトライアド; マキャベリズム, サイコパシー, 自己愛)と恋愛関係における間接的暴力加害との関連について検討を加えている。しかし, 恋愛関係での間接的暴力加害を検討する際には, 現在の関係性についても考慮する必要があるだろう。金政・荒井・島田・石田・山本(印刷中)では, 過去の交際相手との関係性を測定する尺度を作成し, その下位尺度である唯一性(自分には交際相手しかいないといった思い込み, 交際相手との関係を唯一無二だとする感覚)が, 関係破綻後の独善的な執着を高めることでストーカー的行為を増大させることを示している。つまり, 過去の交際相手との関係性が, 関係破綻後の暴力的行為に影響していたのである。本研究では, ストーカーと IPV が連関するという先行研究(e.g. Katz & Rich, 2015)での指摘を踏まえ, IPV を生じさせる要因についてパーソナリティならびに現在の恋愛関係の関係性, 双方の観点から検討を加えることとする。

方 法

手続きと調査対象者: 調査会社の保有するモニタから, 現在交際相手のいる 15~39 歳の男女を対象にインターネット調査を実施した。1800 名に対して調査を実施したが, フィラー項目に誤反応した 249 名を除外した結果, 男性 736 名, 女性 815 名の計 1,551 名を分析対象とした。平均年齢は, 28.46 歳($SD=6.75$)であった。
調査内容: 1. 恋愛に関する愛着不安の測定尺度 (Fraley, Waller, & Brennan, 2000; 金政, 2006)―邦訳版の恋愛に関する愛着スタイル尺度から愛着不安の項目を抜粋(18 項目, 7 件法), 2. 日本語版 Dark Triad Dirty Doze(田村他, 2015; 12 項目, 5 件法)―マキャベリズム, サイコパス, 自己愛の測定尺度, 3. 交際相手との関係性尺度―過去の交際の時の関

係の測定尺度(金政他, 印刷中)を現在の関係性を測定できるように修正(10 項目, 5 件法), 4. 交際相手への間接的暴力加害の測定尺度(相馬・具志堅・上田, 2007; 6 項目, 5 件法)―この半年間(交際を始めてから半年たっていない場合は交際を始めてから)の恋人に対する間接的暴力の加害行動を尋ねた。

調査時期: 2018 年 3 月 2 日~8 日

結 果

DTDD の 3 因子と愛着不安ならびに交際相手との関係性の 3 因子を説明変数, 間接的暴力加害を目的変数として重回帰分析(強制投入法)を男女別に行った。その結果(表 1), パーソナリティ特性としてはマキャベリズムならびに愛着不安が男女ともに間接的暴力加害を増大させることが示された。また, 交際相手との関係性については, 唯一性は間接的暴力加害を増大させるが, 相手優先は間接的暴力加害を減少させることが示された。

これらの結果は, パーソナリティ特性のみならず交際相手との関係性も恋愛関係での間接的暴力加害を検討する上で重要な要因となり得ることを示唆している。今後, パネル調査を実施し, パーソナリティ特性と交際相手との関係性が将来的な IPV を予測するのかについて検討していく必要がある。

引用文献

■Fraley, Waller, & Brennan. (2000). Journal of Personality and Social Psychology, 78, 350-365. ■金政 (2006). 日本社会心理学研究, 22, 139-154. ■金政・荒井 (2018). 日本社会心理学会第 59 回大会. ■金政・荒井・島田・石田・山本 (印刷中). 心理学研究 89 巻 2 号掲載予定. ■Katz, & Rich. (2015). Journal of Family Violence, 30, 189-199. ■警察庁 (2018). 平成 29 年におけるストーカー事案及び配偶者からの暴力事案等への対応状況について. ■内閣府 (2018). 男女間における暴力に関する調査. ■相馬・具志堅・上田 (2007). 日本社会心理学会第 48 回大会. ■田村・小塩・田中・増井・Jonason. (2015). パーソナリティ研究, 24, 26-37.

(Yuji Kanemasa & Takashi Arai)

表 1 DTDD と愛着不安ならびに交際相手との関係性が間接的暴力加害に及ぼす影響(男女別)

	標準偏回帰係数(β)								
	パーソナリティ特性						交際相手との関係性		
		マキャベリ	サイコパス	自己愛	愛着不安		唯一性	相手優先	甘えの受容期待
男性	R^2	.14	.12	.07	.07	.18	.19	-.23	.05
	F	16.27	*			***	***	***	
女性	R^2	.15	.24	.07	-.05	.19	.21	-.14	-.06
	F	20.30	***			***	***	**	

* $p<.05$; ** $p<.01$; *** $p<.001$